

Contents

病院長古閑博明より新年のご挨拶

新春スペシャル対談「未来をつなぐリハビリテーション |

新任医師のご紹介/なになに?ハイブリッドリハビリテーション!!/中国から視察来院/ 献血協力施設として表彰を受けました/ながら運動のすすめ/and more…

Cover Photograph 撮影:伊藤写真事務所 Models:古閑博明(病院長)、冨口若菜(リハビリテーション科医師)



病院長 F頭所感

平成29年1月 病院長 古閑 博明

熊本リハビリテーション病院

た。心からご冥福をお祈りします。 当院の通院患者様にも亡くなられた方々がおられまし の体制で患者様を受け入れることができました。しかし、 幸いにも、当院は地震発生直後より全館稼働にて通常

ます。誠にありがとうございました。 て経験したことのない巨大地震に見舞われました。全国 ーション病院を御支援いただき誠にありがとうございます。 ととお喜び申し上げます。また、日頃より熊本リハビリテ 新年あけましておめでとうございます。 より温かい御支援、お言葉を頂戴し、心より御礼申し上げ 昨年、熊本は震度7を2回観測するという、いまだかつ 皆様におかれましては、お健やかに新年を迎えられたこ

管理及び精神面でのフォローなどが大変重要となってき ない方や不自由な生活を余儀なくされている方がたくさ くれました。県内においてもまだ元の生活を取り戻せてい んいらっしゃいます。そうした方々にとって今後健康維持 多くの職員が、自らも被災しながら、昼夜職務に励んで

通所リハの更なる充実も目指します。 にも力を入れたいと思っております。訪問看護、訪問リハ また、地域の方々のため、在宅医療充実に向け、訪問診療 参ります。

しながら継続的に、生活不活発病予防を中心に支援して ます。リハ専門の医療機関としてこれからも多方面と協力

本年も御指導、御鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

新春 対談

未来をつなぐ リハビリテーション.

病院 古閑 博明 × 医師 富口 若菜

これまでとリハビリテーションの今と未来について語りあい合いました。 専門医を目指し、その勉強のため昨年4月当院に入職した冨口若菜医師と、同じく整形外科 医として医師人生をスタートしてリハ専門医としてキャリアを積んできた古閑院長の二人が リハビリテーション専門医をクローズアップすべく、整形外科医として経験を積む中で、リハ 古閑院長の年頭所感につづき、当広報誌初の試みとして対談を企画してみました。



リハ専門医を目指したのは

とになったきっかけを聞きたいのですが。古閑:はじめに、冨口先生がリハ専門医を目指すこ

富□:初期研修医2年間を経て、平成18年に熊本大学整形外科に入局させていただいて以来、整形外科医として診療を行ってまいりました。その中で、障科医として診療を行ってまいりました。その中で、障利ち、現在リハ専門医を目指し日々勉強しています。 古閑院長はどうしてリハ専門医の道を進まれたの 古閑院長はどうしてリハ専門医の道を進まれたのですか?

古閑:私も元々整形外科に入局しましたが、私たちの時代は医師免許取得後、整形外科の研修を大学の時代は医師免許取得後、整形外科の研修を大学の時代は医師免許取得後、整形外科の研修を大学でのよりの研修で水俣市立湯之児病院へ行きました。私は大学での満之児病院でした。湯之児病院で半年研修し、その後リハビリの研修で水俣市立湯之児病院へ行きました。私は大学での橋療護園(現:熊本県こども総合療育センター)、橋療護園(現:熊本県こども総合療育センター)、

表題で専門医を取得できました。 を出るという(笑)、非常にタイミングがよくて をとりたいと思い学会へ問合せたところ、 のかなど、ゴール設定がうまくできず、勉強する ためリハ科へ転科しました。とにかく早くリハ専 ためリハ科へ転科しました。とにかく早くリハ専 であと1週間入会が遅かったら専門医取得が1年 遅れるという(笑)、非常にタイミングがよくて とれるという(笑)、非常にタイミングがよくて

地域連携システム20年かけて構築された

ますか。や、ジェネレーションギャップを感じることはありや、ジェネレーションギャップを感じることはありいい。

り、すぐリハ専門病院に移ることができます。昔は患の障害を考える会が中心となり作りあげてき患の障害を考える会が中心となり作りあげてき壊連携システムは、平成7年に発足した脳血管疾期病院とリハ病院の機能分化によるいわゆる地

古閑 博明

1979年熊本大学医学部卒業。同整形外科医 局入局。荒尾市民病院、水俣市立湯ノ児病院 等での勤務を経て1989年熊本リハビリテーション病院入職。1994年より現職。

日本リハビリテーション医学会認定専門医、 同認定臨床医、日本整形外科学会認定専門医。 熊本県地域リハビリテーショ支援センター運営 委員長 他役職多数。



富口 若菜

2004年聖マリアンナ医科大学卒業。2006年 熊本大学医学部附属病院整形外科入局、国 立病院機構熊本医療センター整形外科、熊本 中央病院整形外科等の勤務を経て、2013年 熊本大学大学院医学教育部博士課程(医 学)運動骨格病態学分野卒業。2014年熊本 大学医学部附属病院リハビリテーション科助 教。2016年4月当院入職。

医学博士。日本整形外科学会認定専門医、同学会認定運動器リハビリテーション医、同学会認定リウマチ医、日本体育協会公認スポーツドクター、障がい者スポーツ医、JATECインストラクター。

急性期での入院期間が長かったため、足部変形や肩手症候群などの合併症が多かったのです。今は急性期の病院でも発症からすぐリハを行っているのでそれらが少ない。廃用を防ぐという認識が十分でき上がっていると思われます。また、昔と違うのは、上がっていると思われます。また、昔と違うのは、上がっていると思われます。また、昔と違うのは、上がっていると思われます。また、昔と違うのは、中世といかが訪問診療もあり、計問看護・訪問リハ、通ませんが訪問診療もあり、計問看護・訪問リハ、通事中心といったサービスがあります。こういった在宅部門サービスにより家に帰りやすくなっている。当院は早い段階からケースワーカーを多く採用しましたし、退院支援を専門に行う看護師を設置したのもし、退院支援を専門に行う看護師を設置したのもし、退院支援を専門に行う看護師を設置したのもし、退院支援を専門に行う看護師を設置したのもし、退院支援を専門に行う看護師を設置したのもし、退院支援を専門に行う看護師を設置したのもり、といったが、どの合意が、対しないかなと思います。病院見学に表する。

皆さんはあまり感じないかもしれませんが、紙カルテですぐ処方がりいた行き、すぐにりいが始めら発症したときからすると思っているから、届くまでのタイムラグがもどかしかったのですが、今は電子のルテですぐ処方がりがしかるいといけなかった。りいはなルテですぐ処方がりいに行き、すぐにりいが処方箋れるので、大きく改善されています。

古閑:逆に、リハ専門病院で勤務して何に驚きま

したか。

富口:全職種による医療連携の素晴らしさです。 まず、赴任して早期より患者さんを持たせて頂いたのですが、患者さんが入院された、まさにそのたのですが、患者さんが入院された、まさにその水態等を把握するというシステムに驚きました。の状態等を把握するというシステムに驚きました。の状態等を把握するというシステムに驚きました。でど行い、それぞれの役割分担というより、全職種など行い、それぞれの役割分担というより、全職種による実同遂行によって患者さんの早期家庭・社会復帰を目指していることにも驚きました。

リハ医としての今後

してはそれがやってみたいことです。 廃用予防に関わることができたら、リハ医個人とます。主治医がリハ医ではない患者さんの転倒やどリにリハ専門医の目で関わってみたいと思ってい 古閑:在宅部門に行って、在宅患者の療養・リハ

また5年後のビジョンについて聞かせてください。後、リハ医としてどういったことに取り組みたいか、古閑:最後に、冨口先生がリハ専門医となられた

に日々の診療に取り組んでいきたいと思います。的にアプローチできるリハ医を目指し、今後も真摯的にアプローチできるリハ医を目指し、今後も真摯疾病や障がいの治療にとどまらず、生活の再建、疾病や障がいの治療にと



《あとがき》

思います。継がれていく瞬間を目撃できてうれしくがとうございました。リハマインドが受けがとうございました。リハマインドが受け

今後の両先生のご活躍を期待するととも (で、今年一年が皆さまにとって)

企画構成:総務課/坂本和歌子監修:リハビリテーション科/田中智香





麻酔科医 はしくち くみ こ **橋口 久美子**

中心となる業務は手術室にあります。しかし 科に約7年勤めました。麻酔科医にとって 申します。それまでは熊本市民病院の麻酔 病院麻酔科に勤務しています、橋口久美子と 平成28年11月より熊本リハビリテーション

にあたり面接に来た際には、病院や職員の が熊本リハビリテーション病院でした。転職 悩んでいたところ、快く迎えてくださったの 棟も使用できなくなりました。数ヶ月ほど 4月の地震により市民病院は手術室も病

ても働きやすく、日々感謝しております。 りません。手術室も病棟も外来も親切でと して2ヶ月が経ちましたが、その印象は変わ 皆さんの雰囲気の良さを感じました。入職

ひとつです。手術という人生の一大事(大袈裟 に麻酔科医である私ができることは、ただ さて。病院に来られ、治療を受ける患者様

> 支えさせていただけたら幸いです。 良かったと思ってもらえるよう、陰ながら を立てていきます。この病院で手術を受けて よってかなり差があります)に合わせて計画 患者様の状態や性格(痛みの感じ方は人に だきたいです。また、術後の痛みについても があれば、どんな些細なことでも聞いていた わかりやすい説明を心がけます。不安なこと することです。そのために、術前の診察では り済んで良かった、と思ってもらえるように でしょうか…)を、なんでもなかった、あっさ

しています。 いなあと、仕事の合間に筋トレ・イメトレを していました。そろそろまた弓道場に通いた 熊本へ来ました。趣味は大学時代に弓道を 合わせて2年間麻酔に専従し、結婚を機に 杉病院、神奈川こども医療センターなど、 初期研修をしました。日本医科大学武蔵小 馬県です。東海大学を卒業したあと、横浜で 最後に少しだけ自己紹介です。出身は群

げます。 今後とも、どうぞよろしくお願い申し上

献血への協力団体として

血バスに来ていただいております。 大臣表彰状伝達式に古閑院長が出席いたしました。 当院へは毎年、熊本県赤十字血液センターより献 第52回献血運動推進全国大会における厚生労働

申し込む熱心な職員もおりますし、受け付けたけれ 11月18日にも職員24名が献血を行いました。毎回

いる職員もいました。 施行できず残念にして

必要な患者さんのた



厚生労働大臣表彰を受けました

かなになに?



ハイブリッド・リハビリテーション!!

个画構成:理学療法科/冨岡勇貴

「ハイブリッドリハビリテーション」とは、最新の技術や機器を複合して利用するリハビリのことで、異なったリハビリ要素を組み合わせることによる相乗効果が期待でき、更なるリハビリ効果の向上を目指します。その中から今回は、Honda歩行アシストをご紹介します。



Honda歩行アシストとは

当院では、Hondaの開発した"歩行アシスト"という装着型ロボットを、患者様のリハビリに積極的に取り入れています。より楽に、速く、遠くまで歩けるようになりたい…。歩行アシストは患者様のそのような願いを手助けしてくれる革新的な技術であり、その可能性について注目されています。当院では2013年より歩行アシストの共同研究施設としてモニターに参加しており、2015年には、さらに機能が充実した新型歩行アシストを導入しました。

シンプルな構成と扱いやすい機構

歩行アシストとは、足の振り出しを補助することで「歩幅と歩行リズム」を調整し、歩きやすくする装着型ロボットです。 装着者の腰から太ももにかけて装着し(図1)、股関節(足の付け根の関節)のモーターから生じる力により歩行を支援 します。まず、股関節の角度センサー(図2)により、装着者の歩幅・歩数など独自の歩き方を感知します。それに基づき、 「振り出し力」や「蹴り出し力」を最適なタイミングでつくり出し、歩幅を広げ、より楽な歩行が可能になります。重量は 約2.7kgと軽量化され、装着時の負担を軽減しています。

図1 装着が簡単(1分で装着完了)







図2 角度センサーと薄型モーター



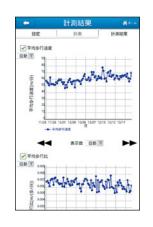
使いやすいデータ解析

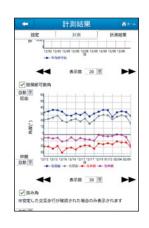
付属のタブレット(図3)を使用し、歩行時の左右対称性・可動範囲・歩行速度などのデータが表示されるので、何時でも何処でも装着者へのフィードバックが可能です。また装着者ごとのデータを記録し経時的なグラフで表示されるので、日々の歩行訓練の効果を確認しながら歩行能力の向上を図っています。

図3 付属のタブレット









3つの訓練モード

①追従モード②対称モードに加え③ステップモード が新機能として追加され、歩行時のかかと・足裏・つま 先へのスムーズな重心移動の練習を集中的にリハビリ する事が可能となりました(表1)。

表1 追加された3つの訓練モード

追従モード	対称モード	ステップモード
装着者の歩行パターン に合わせて歩行動作を 誘導します。	装着者の歩行パターンを 基に左右の屈曲・伸展の タイミングが対称になる ように誘導します。	ロッカーファンクショ ンを獲得できるように 誘導します。

歩行アシストの効果

図4のグラフは当院における歩行アシスト利用者の効果です。患者様は60歳代女性の右片麻痺の方で、通常歩行練習と歩行アシストを使用した練習を2週間毎に行いました。その結果、歩行アシストを使用した期間(データは歩行アシストを外した後に計測した数値)の方が、歩行スピード、歩幅において有意に向上しました。実際に使用して頂いた患者様からは、「早く歩くことが出来た」「リズムよく歩けた」「使用後は体が軽くなったように感じた」などの声を頂いております。また、学会や論文発表においても歩行アシストの効果に関する報告(表2)が散見されており、歩行アシストは多くの可能性を秘めた画期的な技術として期待されています。

図4 60歳代女性 右片麻痺の患者様に使用

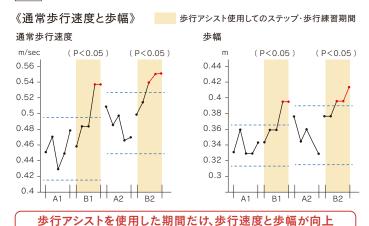
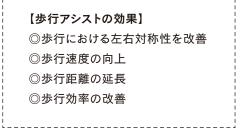


表2 学会や論文の報告より





第2回「医療・介護連携連絡会」が開催されました



携連絡会」を開催致しました。 11月26日に第2回「医療・介護連

近隣の開業医の先生方、介護保険近隣の開業医の先生方、介護保険

今回は、当院の訪問診療と訪問歯科診療について情報提供させて頂きました。また、リハビリテーションで活用している生活行為向上マネジメントの紹介と事例検討のグループワークを行いました。

いろいろな職種の方との交流することができ、またご意見を頂く貴重ことができ、またご意見を頂く貴重で、皆さまとの連携に力を入れていきたいと考えています。

今回参加していただきました方々、本当にありがとうございました。





** 中国南寧市より病院見学に来られました

楊建栄先生、李昌柳先生が病院見学にいらっしゃい 広西チワン族自治区第三人民病院より、院長の

聘され研修を行ったのですが(広報誌2016年 テム」「退院後も続くリハ」をテーマに見学を行って 1月号参照3P『くまりは西遊記』)、今回先方 より依頼があり、脳卒中を中心に「リハ病院のシス 昨年、当院から医師、セラピストが講師として招

医療制度も含めながら説明し、続いてリハ部技術 はじめに院長の古閑より当院の紹介を日本の

制度はありません。また、中国では入院中の食事 療制度が全く違いますし、日本のような医療保険

お尋ねになりました。 経営面でのことなど多岐にわたり、詳しく、熱心に 一人当たり患者数がどうやって保たれているのか、 質疑応答では、日本の診療報酬制度や看護師

いる食事を召し上がっていただきましたが、美味 先生にも大変お世話になりました。 通訳を務めていただいた、熊本大学大学院魏長年 とうございました。また、コーディネーターおよび しいと好評のようでした。 とても素敵なおみやげもいただきました。ありが そして、最後は実際に入院患者様へお出しして

当院のリハシステムの説明、そしてリハ室 や介護は家族が行うそうです。 そうです。しかし当然ながら中国と日本では医 し、そのうちリハ病床は約500床ほどもある 病院にあたり、総病床数は約1、200床を有 御覧いただきました。今回見学にお見えにな 通所リハ、回復期病棟、在宅ケアセンターを 部長の槌田よりハイブリッドリハを中心に った第三人民病院は日本で言うところの県立





いつでもどこでも短時間で効率よく効果が得られる 「ながら運動」第2シーズンの第4回目はバランス運動です。

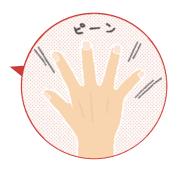
インナーマッスルが働き バランス向上につながります。

手と足を広げ バランスをとりましょう!

【方法】

椅子に座った状態から、手と足を前に 伸ばし、その姿勢を3秒間保持します。 手の指、足の指もしっかり広げましょう。 3回行います。





【注意点】

- 手足はできるだけ伸ばします。
- ・足は無理をせず床から少し浮 かします。
- ・バランスの悪い人は、両手で 椅子をつかみ、両足の指を広 げましょう。



社会医療法人社団 熊本丸田会

熊本リハビリテーション病院

〒869-1106 熊本県菊池郡菊陽町曲手760 TEL.096-232-3111 FAX.096-232-3119

院 病める人に愛と奉仕を 己の仕事に誇りと責任を 組織の中に英知と秩序を そして理想の医療に向かって 一歩一歩前進しよう

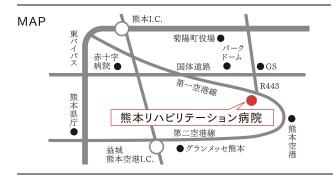
院 基本理念 1. 地域ニーズに応えうる 高機能の総合リハビリテーション病院を目指します

2. 患者様の権利を尊重し 満足して頂ける医療サービスを提供します

3. 保健・医療・福祉の連携を推進し地域社会に貢献します

診療科目

- ・整形外科 ・リハビリテーション科 ・内科 ・循環器内科 ・呼吸器内科
- ·消化器内科 ·代謝内科 ·総合診療科 ·脳神経外科 ·神経内科 ・形成外科 ・泌尿器科 ・麻酔科 ・放射線科 ・血管外科 ・リウマチ科
- ·心臟血管外科 ·歯科 ·歯科口腔外科



関連施設

- •熊本整形外科病院 〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺1丁目15-7 TEL:096-366-3666
- •介護老人保健施設サンライズヒル 〒869-1106 熊本県菊池郡菊陽町曲手760 TEL:096-232-5656
- •南郷谷整形外科医院 〒869-1602 熊本県阿蘇郡高森町高森2186-1 TEL:0967-62-3351
- ・訪問看護ステーションひまわり (熊本リハビリテーション病院併設) TEL:096-232-3113
- ・指定居宅介護支援事業所サンライズヒル (熊本リハビリテーション病院併設) TEL:096-232-3115
- ・通所リハビリテーション 熊リハ病院 (熊本リハビリテーション病院併設) TEL:096-232-3970
- 菊池地域リハビリテーション広域支援センター (熊本リハビリテーション病院内) TEL:096-232-3194
- ・熊本リウマチセンター (熊本整形外科病院内) TEL:096-366-3666